

Veronica Denkichiana and *V. subincanovelutina* are polytypic species differentiated in the region, covering the Japan Sea side of the northern Hondo, Hokkaido and Korea.

〇ケオオクマヤナギについて (倉田 悟) Satoru KURATA: On *Berchemia magna* var. *pubescens*.

初島住彦氏が本誌 26 巻 12 號にケオオクマヤナギ (オオバミヤクマヤナギ) について書かれているのを拜見したが、筆者もこの類は興味を持つて調べ野草誌上 (No.140 1951 年 2 月) 其他にこれを報告し、初島氏から御教示を受けた事もあるので、更に此處に私見を述べて見たい。

先ず、ホナガクマヤナギは奥山氏も比較された如くミヤクマヤナギに近縁なもので、ケオオクマヤナギとは全く別種であると思う。ケオオクマヤナギは纏繞性藤本にして花序は通常多くの長大なる枝を開出する大円錐花序を成し、葉裏は細脈上迄有毛であるのに對し、ホナガクマヤナギはミヤクマヤナギと同様、直立性灌木にして花序は通常余り枝をうたず小型の偽總狀花序であり、更に葉裏は脈腋を除き無毛である。初島氏が擧げられた福井縣及び木曾のものは恐らくホナガクマヤナギではなくてケオオクマヤナギ其者であろう。

次に、ケオオクマヤナギとオオバミヤクマヤナギが同一品であろう事は筆者も同意見であるが、和名としては前者の方がふさわしいと思う。即ちオオクマヤナギの葉も腊葉にすると、ハイノキ科植物の様に黄色を増すのが普通であつて、ケオオクマヤナギはただ、葉裏全面細脈上迄有毛なる點 (オオクマヤナギは脈腋附近のみ有毛) により區別出来るのみで、オオクマヤナギの變種とするのが妥當でミヤクマヤナギとは縁遠いと考えからである。尙九州のオオバミヤクマヤナギの花序が如何なる型のものか筆者には不明であるが、これと同一種とされる中支産の *Berchemia Huana* Rehder がオオクマヤナギ様に枝をうつ円錐花序を有する事は原記載に明記されている。(東京大學農學部)

Berchemia magna var. *pubescens* Ohwi in Bot. Mag. Tokyo 44: 572 (1930).

Berchemia fagifolia Koidz. in Bot. Mag. Tokyo 39: 21 (1925); Hatusima in Journ. Jap. Bot. 12: 876 (1936), et 26: 374 (1951).

Berchemia Huana Rehder in Journ. Arn. Arb. 8: 166 (1927).

Distr.: Honshu (Prov. Kazusa, Izu, Totomi, Mikawa, Shinano, Yamato and Kii), Kyushu and Central China.

This variety can be distinguished from the typical form only by its leaves pubescent beneath. The leaf of the typical form is glabrous beneath except near the axils. As *Berchemia longiracemosa* Okuyama is not only a erect shrub, but has nearly simple pseudoracemose inflorescences and leaves glabrous beneath except axillary barbate hairs, it is very different from this variety and is closely related to *B. pauciflora* Maxim.